



コウノトリの移送事業が実現しました。本当におめでとございます。

ここに至るまでの関係者の皆さまのご尽力に、心から敬意を表します。

「思い出のないところに、ふるさとはない」と言います。大切な思い出のある場所、それが「ふるさと」です。コウノトリの体内に記憶が受け継がれているとすれば、彼らにとって越前は、ふるさとの一つであたに違いありません。

豊岡で自由な翼を得たコウノトリは、おぼろげな記憶をたどりながら、昨年4月に越前の地に降り立ち、一〇〇日以上もの日々を過ごし、その風景は、住民の方々が忘れかけていた「思い出」を呼び起こし、心に火をつけ、その熱意が周囲を動かして本日の飼育コウノトリの移送に結びついたのであります。

越前でのコウノトリ野生復帰は、大きな一歩を踏み出しました。次は、思い出の風景を、現実のものとする事です。

囲いから出たコウノトリが、ちゃんと越前に居つき、ペアになり、子どもを産み、風景の中に溶け込んで暮らす。越前が、コウノトリにとって本当の「ふるさと」になる。その時まで、豊岡はエールを送り続けます。

皆さまの熱意があれば、きっとその日は来ると信じます。大丈夫です。コウノトリは、ちゃんと覚えてくれる鳥ですから。

進まず、慌てず、一歩ずつ、一歩ずつ。

平成二十三年十二月一日

兵庫県豊岡市長 中貝宗治